

【都道府県用中間報告書様式】

都道府県番号	12
都道府県名	千葉県

学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
千葉県学力向上推進地域	859校 (34校)	385校 (12校)	1244校 (46校)

学力向上推進協議会（地区別協議会）の設置数及び域内の学校数

(2) 学力向上推進協議会（地区協議会）の設置数及び域内の学校数

地区別協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
千葉地区協議会 (市原市，習志野市，八千代市)	83校 (3校)	39校 (1校)	122校 (4校)
船橋地区協議会 (船橋市，市川市，浦安市)	108校 (1校)	50校 (2校)	158校 (3校)
東葛飾地区協議会（松戸市，柏市，野田市，流山市，我孫子市，鎌ヶ谷市，沼南町）	145校 (2校)	71校 (0校)	216校 (2校)
印旛地区協議会 (佐倉市，成田市，四街道市，八街市，印西市，白井市，富里市，酒々井町，栄町，印旛村，本埜村)	108校 (3校)	48校 (0校)	156校 (3校)
香取地区協議会 (佐原市，下総町，神崎町，大栄町，栗源町，小見川町，山田町，千潟町，東庄町，多古町)	53校 (1校)	15校 (0校)	68校 (1校)
海匠地区協議会 (銚子市，旭市，八日市場市，海上町，飯岡町，光町，野栄町)	44校 (2校)	16校 (1校)	60校 (3校)
山武地区協議会 (東金市，大網白里町，九十九里町，成東町，山武町，松尾町，蓮沼村，横芝町，芝山町)	38校 (3校)	16校 (1校)	54校 (4校)
長生地区協議会 (茂原市，一宮町，白子町，長柄町，長南町，睦沢町，長生村)	31校 (4校)	14校 (1校)	45校 (5校)

夷隅地区協議会 (勝浦市, 大多喜町, 夷隅町, 御宿町, 大原町, 岬町)	30 校 ( 4 校)	9 校 ( 1 校)	39 校 ( 5 校)
安房地区協議会 (館山市, 鴨川市, 鋸南町, 富山町, 富浦町, 三芳村, 白浜町, 千倉町, 丸山町, 和田町, 天津小湊町)	42 校 ( 6 校)	17 校 ( 2 校)	59 校 ( 8 校)
君津地区協議会 (木更津市, 君津市, 富津市, 袖ヶ浦市)	57 校 ( 2 校)	34 校 ( 1 校)	91 校 ( 3 校)
千葉市地区協議会(千葉市)	120 校 ( 3 校)	56 校 ( 2 校)	176 校 ( 5 校)

#### 都道府県教育委員会としての支援策

- (1) 地区別協議会に対して  
地区別協議会実施要項を作成し、各地区での開催について、開催方法や協議内容、運営等について基本的事項を示した。  
事務局は地方出張所内におき、担当指導主事が協議会の運営にあたった。
- (2) 域内の各小・中学校(含:学力向上フロンティアスクール)に対して  
千葉県学力向上推進委員会で、県内の学力向上の方策について検討を進めた。(国語力向上の方策, 学力状況調査の活用, 教員の指導力向上の方策, 学力向上に関して家庭や地域に求めるべきこと等について)  
「学力向上に関する当面の取組」を示し、各学校の実態に応じた具体的な取組を促した。  
県内7会場で教育課程研究協議会を開催し、指導方法や指導体制の工夫・改善による学力の向上について、研究協議を進めた。  
地方出張所指導主事がフロンティアスクールを含めた県内小・中学校を訪問し、学力向上のための取組について、指導・助言に努めた。  
小・中・高等学校の教員による学校種を越えた授業公開等により、学力向上について相互の連携を図るように努めた。  
高等学校の教員が近隣の小・中学校で、得意な専門分野の学習内容をわかりやすく指導する事業を推進した。
- (3) 実践研究の成果の普及の方策の構築  
指導方法や指導体制の改善に向け、フロンティアスクールの実践例を掲載した指導資料を刊行した。  
千葉県総合教育センターで発行している「千葉教育」で実践例を紹介した。  
地方出張所指導主事の学校訪問等で、各フロンティアスクール研究成果の普及にあたった。  
研究の具体的な実践を含む概要をホームページ上で公表することとした。

#### 学力把握のための都道府県としての取組について

#### 学力状況調査の実施

- ・ 調査の目的 学習指導要領において身に付けることが求められている資質や能力，児童生徒の学習等についての意識を調査し，指導方法や指導体制の改善を図る。
- ・ 調査対象教科，学年，範囲  
小学校 5年 4教科（国語，社会，算数，理科）  
対象学年児童数の10%程度を抽出して実施  
中学校 2年 5教科（国語，社会，数学，理科，外国語）  
対象学年生徒数の10%程度を抽出して実施
- ・ 調査の時期 平成16年2月
- ・ 調査結果及びその活用  
平成16年8月末に調査結果を公表の予定  
県の学力向上の施策に反映させるとともに，各学校の指導方法や指導体制の改善を図る。

#### 学力向上推進協議会について

##### (1) 開催時期及び参加対象

- |     |   |
|-----|---|
| 第1回 | 平成15年5月30日<br>地方出張所指導主事，市町村教育委員会指導主事<br>フロンティアスクール研究担当者 |
| 第2回 | 平成16年2月4日<br>地方出張所指導主事，市町村教育委員会指導主事<br>フロンティアスクール研究担当者  |

##### (2) 協議会の主な内容等

- |     |  |
|-----|--|
| 第1回 | (趣旨)<br>・ 学力向上フロンティア事業の推進について協議する。<br>(主な協議内容)<br>・ フロンティアスクールの研究の進め方について<br>講話 文部科学省教育課程課 大木茂課長補佐<br>協議 千葉県における本事業の取組について<br>・ 研究推進の状況と課題について<br>部会協議 小学校(3部会)，中学校(1部会)<br>指導主事部会(3部会) 7部会で協議<br>(協議会の中で報告された内容)<br>・ 本年度の事業の方向性や取組事項について確認された。<br>・ 各フロンティアスクールの取組について，情報交換ができた。 |
| 第2回 | (趣旨)<br>・ 今年度の学力向上フロンティア事業のまとめと来年度の取組について協議する。<br>(主な協議内容)<br>・ フロンティアスクールの研究事例の発表・協議<br>千葉市立弁天小学校の取組<br>夷隅町の取組<br>・ 本年度のまとめと来年度の取組について  |

(協議会の中で報告された内容)

- ・フロンティアスクールの研究内容や研究の課題について
- ・本年度の事業のまとめのあり方や来年度の取組の方向性について

\* 本県では、学識経験者や企業関係者、保護者、学校関係者等で構成する「学力向上推進委員会」において、学力向上のための具体的施策を検討しているところであり、その検討を踏まえた実践研究と研究成果の普及のあり方の検討が本協議会の主な役割と位置づけている。

実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容

- ・児童生徒の学力定着の状況の評価
  - ・千葉県学力状況調査の実施
- ・研究推進状況の評価
  - ・理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導の取組状況
  - ・発展的な学習や補充的な学習のための教材開発の状況
  - ・外部人材の活用状況
  - ・評価規準の具体化と活用状況
- ・県教育委員会及び学力向上推進協議会の各フロンティアスクールへの支援の評価
  - ・各フロンティアスクールへの指導主事の訪問状況
  - ・各フロンティアスクールへの資料提供の状況
- ・地区協議会の活動状況の評価
  - ・各フロンティアスクールへの支援の状況
- ・実践研究の成果の普及への評価
  - ・各フロンティアスクールの研究発表会への意見聴取
  - ・研究の成果をまとめた冊子の活用状況
  - ・各学校における学力向上のための取組の進捗状況
- ・研究に関わる保護者への説明の状況
  - ・保護者への説明内容と方法の調査
  - ・保護者の本研究に関わる意見聴取

進捗状況（成果及び課題等）

- ・成果
  - ・県学力状況調査は調査対象校だけでなく、他の学校でも活用する動きが見られた。また、市町村が独自に学力調査を実施する動きもあり、全体として、学力の伸びの状況をより具体的に把握しようとする機運が高まってきた。
  - ・習熟度別指導等など児童生徒の理解や習熟の程度を踏まえた指導が充実してきている。その結果、学習内容の理解が深まっただけでなく、意欲的に学習に取り組む児童生徒が増加してきている。
  - ・多くの学校で発展的な学習や補充的な学習を取り入れるようになり、年間指導計画等に位置付け、成果をあげている学校もある。
  - ・地域に住んでいるボランティアに協力を依頼している学校が多い。小・中学校で高等学校の教員に指導を依頼したり、算数指導の補助を元教員にお願いしたりするなどの新しい動きも見られた。
  - ・自己評価カードやチェックリスト、学習前の事前テスト、個人カルテなどを

利用して、児童生徒の実態を把握するとともに、指導に生かす工夫が積極的に行われている。

- ・地区協議会では、フロンティアスクールの研究授業を参観する地区が多くあり、具体的な実践をもとに協議が行われた。
- ・各フロンティアスクールからの要請を受け、地方出張所や市町村教育委員会の指導主事が学校訪問で、具体的な指導にあたった。
- ・研究成果の普及として、地区での発表会や公開研究会の開催、校内研究授業への他校教員の参加等の取組が見られた。各校のホームページでの研究成果の発表や電子メール等での意見交換、資料の提供などの新しい試みがなされた。
- ・フロンティアスクールでは、保護者会などの集まりでの説明、学校便り等で、習熟度別の学習など研究内容について説明してきた。また、授業参観で児童生徒の学習の状況を見ていただくようにしてきた。その結果、多くの保護者が習熟度別指導等を好意的にとらえ、研究推進に理解を示してくれている。

・課題

- ・習熟度別指導をより効果的にするための指導方法の工夫や教材開発を今後とも授業実践を通して推進していく必要がある。
- ・小学校で一部教科担任制を導入している学校が比較的少ない。日課表の工夫など、円滑に導入できるような支援をしていく必要がある。
- ・習熟度別指導を実施するための事前打ち合わせの時間の確保が難しい。
- ・教科学習に外部人材を積極的に活用するように、先進的な事例等を紹介していく必要がある。
- ・来年度は学力向上フロンティア事業の最終年度であることを踏まえ、研究成果の普及について、さらに推進していく必要がある。

【地区別協議会における特色ある取組】

地区内の学校に対する支援策

- ・市町村教育委員会で、学力向上フロンティア事業を推進する委員会や連絡会を設置し、研究の推進や研究成果の普及に積極的に取り組んできた。  
(千葉市, 夷隅, 安房地区協議会)
- ・研究推進について、情報を交換したりや講師から指導を受けたりしてきた。  
(各地区協議会)

研究成果の普及の方策

- ・研究成果の普及について具体的に検討してきた。(各地区協議会)